

令和7年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

吳中央中学校区 校番13 吳中央中学校

a 学校教育目標	「自分」を育てる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	(ミッション)(学校の使命) 小中一貫教育を通して、生涯を自ら豊かに学び続け、 自他を大切に主体的に生きる根っこを育てる。 (ビジョン)(将来の学校像) 「楽しい学校・安心できる学校・やりがいのある学校」														
c 中期経営目標を踏 まえた現状(進捗状 況)と今年度の重点		生活科・総合的な学習の時間を中心に、児童生徒の問いがつながる深い学びの実現を目指して小中で研究を 進めてきた成果が出ている。その他の教科においても生徒に思考を促す発問を取り入れ、「吳中央学園 深い 学びを実現する授業スタイル」をもとに、更なる授業改善を進めていく。また、生徒の心にとっかり寄り添い、 自尊感情の向上に向けた取組を継続していくと共に、生徒が安心して生き生きと学校生活を送れるように、「心 の居場所づくり」及び「積極的な生徒指導」に取り組んでいく。さらに、業務改善を進め、元気で明るい職場づく りに取り組んでいく。															
育成を目指す資質・能力		「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」															
評価計画(中期経営目標を設定してから 1 2 3 年目)												自己評価					
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目 標 値	上半期			下半期								
						i 達成 値	j 達成 度	k 評価	i 達成 値	j 達成 度	k 評価						
★★	① 生き生き根っこを 育てる「豊かな学 び」の創造	① 「主体的、対話的 で深い学び」の実 現と基礎・基本の 定着を図る。	① 学園授業スタイルに基づき、 探求的な活動や「思考を促す 発問」を取り入れた思考過程 の工夫による授業改善を 推進する。	授業の中で「思考し 表現している生徒」 の割合	90%												
			総合的な学習の時 間に係る意識調査 において肯定的回 答をしている生徒の 割合	85%													
			個別支援プログラムに基づ き、補充学習・質問教室等を 進める。 タブレット教材等ICTを有効的 に活用する。	学力調査・定期試験 (国・数・英)における 通過率30%以上の 生徒の割合	90%												
			授業と関わりのある課題を設 定し、「吳中央中学校スタン ダード」を活用して、家庭学習 を進める。	各学年の家庭学習 目標時間の達成率 の割合	65%												
★★	① 生き生き根っこを 育てる「豊かな生 き方」の創造	① 「自己指導能力」 を高める。	① 生活目標「あいさつ」「返事」 「時間」「掃除」を明確に示し、 自己評価・他社評価等を行う ことで習慣化を図る。	「あいさつ」「返事」 「時間」「掃除」に関 するアンケートにお いて肯定的回答をし ている生徒の割合	95%												
			② 生徒指導の実践上の4つの 取組を取り入れて、集団づく り・授業づくりを進め、望まし い人間関係をつくり、生徒の 自尊感情を高める。	自尊感情に関するア ンケート「自分には よいところがある」と 思っている生徒の割 合	90%												
★	① 生き生き根っこを 育てる「しなやか な体」の育成	① 基本的生活習慣 の定着と体力・運 動能力の向上を 図る。	① 三点固定(早寝・早起き・家 庭学習)やメディアコントロ ールの指導の充実を図る。	三点固定ができてい ると回答している生 徒の割合	80%												
			② 小中で共通した重点種目を 設定し、9年間を見通した取 組を推進する。	8年生の新体力テス トの結果、昨年度よ り向上した生徒の割 合	80%												
業務 改 善	① 業務改善を進め、 元気で明るい職 場を実現する	① 生徒と向き合う時 間を確保する。 ② 長時間勤務の縮 減を図る。	① 会議の精選・時間短縮や校 内研修の計画的な実施によ り、勤務時間の有効活用に 努める。	生徒と向き合う時間 が確保されていると 感じる教員の割合	80%												
			② 部活動規定と一斉定時退校 の厳守を習慣化する。	時間外勤務が月45 時間以下の教職員の 割合	70%												
い じ め の 防 止	① 安心・安全な学校 生活の確保と信 頼される学校づく りの実現	① いじめを絶対に許 さない生徒の育成 を図る。	① いじめ撲滅キャンペーンやS ST等を通して望ましい人間 関係を育む。	「いじめは絶対に許 されない行為であ る」と考える生徒の 割合	100 %												

【k:評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60